

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
 ローム株式会社 J地区 新事務棟

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ソーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 屋光利用								
1 屋光率								
2 方位別開口								
3 屋光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 屋光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					独自の空調システムの導入、吊配管 節水機器の採用、配管系統の区分、水槽を分離	3.6	0.20			
1	空調・換気設備					5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備					4.0	0.20			
3	電気設備					3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20			
5	通信・情報設備					3.0	0.20			
3 対応性・更新性						3.9	0.30			3.9
3.1 空間のゆとり						4.6	0.30			
1	階高のゆとり				階高3.9m以上確保	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		壁長さ比率:0.29	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性						4.2	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		グリッド天井・将来用スペースを設け、仕上げ材を痛めず修繕・更新が可能	4.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		仕上げ材を痛めることなく修繕・更新が可能	5.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		グリッド天井・OAフロアの採用で仕上げ材を痛めず修繕・更新可能	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		グリッド天井・OAフロアの採用で仕上げ材を痛めず修繕・更新可能	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				屋上にバックアップスペースを確保する	4.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30			3.0
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)			3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)			3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-			3.7
LR1 エネルギー						-	0.40			3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制					BPI=0.80	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		ナイトバーン機能付きの全熱交換機・昼光利用制御を採用	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)		[BEI][BEIm] = 0.71	3.9	0.50			3.9
4 効率的運用						3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00			
4.1	モニタリング					3.0	0.50			
4.2	運用管理体制					3.0	0.50			
集合住宅の評価						-	-			
4.1	モニタリング					3.0	-			
4.2	運用管理体制					3.0	-			
LR2 資源・マテリアル						-	0.30			3.8
1 水資源保護						3.4	0.20			3.4
1.1 節水					擬音装置、節水型便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)			3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減						3.9	0.60			3.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		高強度の鉄骨材、鋼材や鉄筋材の使用量削減可能な設計	4.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		OAフロア、ビニル床シート、天井ボード	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)		OAフロア、軽量鉄骨下地の採用	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避						4.3	0.20			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					PRTR法に該当しない材料を使用	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避						4.0	0.70			
1	消火剤					-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				ODP=0の断熱材を使用	5.0	0.50			
3	冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境						-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮					LCCO2排出率換算スコア:3.8	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮						3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止					燃焼機器は使用しない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減					3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3	交通負荷抑制				隣地に専用駐車場・駐輪場を設ける	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮						3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40			
1	騒音					3.0	1.00			
2	振動					-	-			
3	悪臭					-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制						3.0	0.40			
1	風害の抑制					3.0	0.70			
2	砂塵の抑制					-	-			
3	日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制						3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策ガイドラインの一部の項目を満たす。	4.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)			3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる